空の移動革命に向けたロードマップ

素案

2018年　月　日　空の移動革命に向けた官民協議会

2019年 | 2020年代 | 2030年代

事業者による利活用の目標

試験飛行・実証実験

事業者による
ビジネスモデルの提示

事業スタート

実用化の拡大

- 都市での人の移動
- 地方での人の移動
- 娯楽としての飛行
- ドローン → “空飛ぶクルマ” 物の輸送

制度や体制の整備

試験飛行の許可

必要な制度の整備

- 利用者利便の確保のあり方検討 → 運送・使用事業の制度整備
- 技能証明の基準整備 → 技能証明
- 国際的な議論を踏まえて策定・審査
- 機体の安全性の基準整備 → 型式証明 耐空証明

社会的に受容される水準の達成

- 新たなビジネスモデルに応じた運送・使用事業の制度整備の見直し
- 地上からの遠隔操縦、機上やシステム等による自律飛行などの技術開発に応じた制度整備
- 国際的な議論を踏まえて実施
- 技術開発に応じた安全性基準・審査方法の見直し

試験飛行のための離着陸場所・空域の調整・整備 → 離着陸場所・空域の調整・整備

- 離島や山間部から都市部へ拡大 → 都市部を高頻度で飛行
- 継続的に離着陸可能な場所の拡大（地元地域、地権者等との調整）
- 運航管理システムのサービスの提供 → サービスの拡充

機体や技術の開発

試作機開発完了

電動推進かつ人がのることができる構造の機体の実現

航空機と同レベルの安全性や静粛性の確保

- **安全性・信頼性**を確保する技術の開発 → 安全性・信頼性の向上
- **自動・自律飛行 運航管理**　機上や地上のシステム（衝突回避や運航管理）の技術開発 → 一部自動操縦 → 地上からの遠隔操縦 → 機上や地上のシステム等による自律飛行
- **電動推進**　事業化に必要な航続距離と静粛性を確保する技術の開発 → 航続距離の向上（電池やモーターの技術開発等）静粛性の向上（静音化技術の開発等）